

◎ 登山者の皆様へ（重要なお知らせ）

幌尻岳登山は、百名山の中で最難関と言われる所以は、北海道以外の方については距離的な事もありますが、百名山唯一渡渉があるので、その沢も雨が降り続くと増水し2～3日渡れなくなります。

又、最近の事故の大部分が渡渉中のもので、事故の多くは単独行の登山者、天候回復や川の水位低下を待たなかった判断ミス等となっています。

登山者の高齢化、スケジュールの過密化などにより、上級者でも難しいと言われている幌尻岳登山について、個人の登山者は渡渉時にはグループを組んで行動し、技術がない方は有資格の登山ガイドを同行させるようにしてください。

増水時には見た目と足元の流れは違うので注意が必要で、安全と過信せず無理をせずに幌尻山荘で待機してください。

安易な巻き道や強行下山は死亡事故につながります。

重大な事故を防止するためにも、ご自身の体力や経験、体調にあわせ、無理をせず、引き返す勇気を持つことも重要となります。

近年の幌尻

年月日	事故内容	備考
R5. 10. 16 (2023)	単独で入山した男性が帰宅予定日になっても帰宅しないため、警察に通報。	男性1名（50才代） 1名行方不明 （日高町千呂露林道付近）
R5. 9. 6 (2023)	局地的な豪雨による糠平林道内の土砂災害により、登山客を迎えに行けない事態が発生。幸い怪我人は出なかったが、今後もそのような事態が発生することは起こり得るのでバスが来なくても第2ゲートで必ず待機すること。	男性1名、建設業者3名が復旧までの数時間林道内で待機
R5. 8. 25 (2023)	幌尻岳より下山途中の登山者より通報があり、下山途中に「トツタの泉」から数十メートル山頂側で遺体を発見したとの通報。道警へリで救助。	男性1名（40才代） 1名死亡 （日高町）
R5. 8. 9 (2023)	10名パーティーで登山中、四の沢上流で滑落。頭を打って出血し、意識がもうろうとしている状態で消防救助要請。北海道防災へリで救助。	女性1名（70才代） 1名死亡
R5. 8. 9 (2023)	四の沢付近で左アキレス腱を負傷し（断裂か打撲かは不明）、自力で下山が不可な為、幌尻山荘へ戻り衛星電話にて消防救助要請。北海道防災へリで救助。	男性1名（50才代） 1名負傷
R5. 8. 4 (2023)	登山6人のパーティーのうち1人が命の泉あたりで足を滑らせた際に左ひざ（じん帯）を負傷する。	男性1名（50才代） 1名負傷
R1. 8. 9 (2019)	1名で幌尻登山に入った男性（聾啞者）が下山してこないとの通報。救助隊等の捜索をしたものの行方不明のまま。その後、ザック等が見つかったが、その男性は見つかっていない。	男性1名（70代） 1名行方不明

年月日	事故内容	備考
H29. 8. 29 (2017)	男女8名で幌尻下山中、雨で増水した額平川で対岸にロープを張り、1人が伝って川を渡っている最中に溺れた。助けようとした2人も流れに足をとられた。現場の川幅は、約10mで普段の水深は約50cmだが、この日は増水で約1mと深くなっていた。他の5人が近くにいた登山客に協力を求め、幌尻山荘の管理人が衛星電話で消防に通報。溺れた3人は他のメンバーに救助され付近の岸に引き揚げられた。	死亡事故 男性4名、女性4名 (70代1名) (60代7名) 3名死亡、5名無事
H28. 7. 4 (2016)	幌尻岳登山中に滑落し、防災ヘリにて国保病院へ搬送後、王子総合病院へ転送。顔面陥没骨折、頭部外傷等負傷。	女性1名 (60代) 1名負傷
H27. 7. 30 (2015)	幌尻岳登頂後、幌尻山荘に1泊。翌日下山途中、山荘と取水ゲートの中間地点の四ノ沢付近で3mほどの高さの斜面を降りるときに足を滑らせて1mほど滑落。右側頭部及び右手親指負傷。	男性1名 (60代) 1名負傷
H26. 8. 17 (2014)	額平コースから入山し幌尻山荘に宿泊したが、夜間山小屋で内耳の持病が悪化し行動不能となり救急要請。	男性1名 (70代) 1名無事
H26. 8. 2 (2014)	幌尻山荘から幌尻岳、戸蔦別岳を登頂し幌尻山荘に向けて六ノ沢を下山中、バランスを崩し転倒。右足を負傷。	男性1名 (60代) 1名負傷
H25. 9. 9 (2013)	幌尻山荘から幌尻岳、戸蔦別岳を登頂し幌尻山荘に戻る途中、額平川の上流部(標高1,200m付近)で道に迷い同所でビバーク。	女性1名 (60代) 1名無事
H24. 8. 16 (2012)	幌尻山荘から額平川を下山中、増水した沢の中で足を取られ転倒。右足を負傷。	女性1名 (50代) 1名負傷